

献 辞

森岡仁先生は、2012年1月に古稀を迎えられ、3月末日をもって46年間を過ごされた駒澤大学を定年退職されます。古稀をお祝い申し上げますとともに、駒澤大学一筋46年の長きに亘り本学および経済学部の発展に貢献された研究・教育・学務の活動に感謝申し上げます。

森岡先生は、中央大学経済学部を卒業後、同大学院経済学研究科修士課程を1966年3月に修了され、同年4月に駒澤大学経済学部助手として奉職され、助手期間にはデューク大学大学院経済学研究科修士課程に留学されています。現在の大学を取り巻く環境とは異なる恵まれた環境にあったと羨ましく思われる時代に大学教員としての生活をスタートされています。その後、専任講師、助教授、教授、そして大学院経済学研究科教授を歴任され、その間にはプリンストン大学人口研究所客員研究員として在外研究にも従事されています。また46年間にわたる在任期間には、亜細亜大学、明治学院大学、中央大学など多くの大学において非常勤講師も勤められてきました。

同時に、大学運営（学務）の活動におかれましても、1981年4月から1983年3月までの経済学部第二部経済学科主任、1993年4月から1995年3月までの経済学研究科委員長、1997年4月から1999年3月までの経済学部長（学校法人駒澤大学評議員を兼務）と駒澤大学および経済学部の要職を歴任され、駒澤大学における研究と教育の充実・発展に大きな足跡を残されてきました。

森岡先生の主要な研究分野は経済人口学あるいは人口経済論であり、経済学部における主要な担当科目は「人口論」でした。経済人口学や人口経済論の研究者は少ないと思われませんが、「人口論」を専門科目として設置する経済学部は多くはないと思われま。駒澤大学経済学部の「人口論」は、森岡先生の恩師であり、日本における人口学の創始者であり本学経済学部教授でもあった南亮三郎先生のご担当科目でした。森岡先生は南先生の「人口論」を科目として引き継がれると同時に学問としても継承・発展されてきました。森岡先生は現在も人口学研究会会長を務められていますが、人口学研究会も南亮三郎先生が創設された人口論研究のフロンティア研究会であり、まさに森岡先生は日本の人口学研究の王道を歩んでこられたといえます。

このような森岡先生の研究成果は、『人口経済論』（共著、新評論、1977年）、『経済人口学』（共著、新評論、1981年）、『人口減少時代の日本経済』（共編、原書房、2006年）などに代表される数多くの著書、論文、翻訳、学会報告に見ることができます。また、学会活動では、日本経済政策学会理事（1986年4月～1989年3月）、日本経済学会連合評議員（1997年7月～2008年6月）、日本人口学会理事（2004年7月～2006年6月）なども歴任され、2008年7月には日本人口学会会長（2010年6月まで）にも就任されています。

最後に特筆させていただきたいことは、森岡先生の温かな人柄についてです。経済

学部長の時期だけでなく、常日頃の教授会においても、さまざまな困難な課題に直面しても常に会議の雰囲気を読み、自己を主張することなく纏めてられました。難しい問題があれば森岡先生にお頼みする、振り返ればこのことが経済学部の学部運営の基本であった、と痛感しています。

森岡先生は古稀を迎えられ定年されるとは思えないほど健康そのものと拝見しております。今後とも健康にご留意いただき、研究や社会活動においてますますご活躍されることを祈念いたします。

経済学部長 百 田 義 治